

STD (性感染症)について

古くから、梅毒、淋疾、軟性下疳、鼠径リンパ肉芽腫（第四性病）の4疾患が性病として恐れられていました。近年、性行為（性交並びに性交以外の性的接触）により感染する疾患を総合的に把握する用語として、国際的にSTD（sexually transmitted diseases）が用いられております。

病原微生物から、STDを分類しますと、

- 1、細菌：梅毒、淋菌感染症（淋疾）、軟性下疳、鼠径肉芽腫。
- 2、ウイルス：性器ヘルペス（陰部疱疹）、尖圭コンジローム、陰部伝染性軟属腫、A型・B型・C型ウイルス肝炎、サイトメガロウイルス感染症、伝染性単核症、AIDS（エイズ後天性免疫不全症候群）。
- 3、クラミジア：鼠径リンパ肉芽腫（第四性病）、非淋菌性尿道炎、クラミジア頸管炎。
- 4、マイコプラズマ：非淋菌性尿道炎。
- 5、真菌：外陰・膣カンジダ症。
- 6、原虫：膣トリコモナス症、アメーバ赤痢。
- 7、寄生虫：疥癬、毛ジラミ症
となります。

最近の統計成績から、クラミジア感染症が最も多く、淋菌感染症がこれに次ぎ、以下性器ヘルペス・尖圭コンジローム・梅毒の順であります。クラミジア感染症・淋菌感染症と梅毒の約半数（とくに女性の場合）は疾患特有の症状を示すことはありません。医療機関の検査により、初めて診断が確定されます。一方性器ヘルペスと尖圭コンジロームの典型的な症例は視診により、診断可能です。現在のところ日常臨床に役立つ検査として前者には特異抗体（IgM・IgG）、後者にはHDV-DNA検査があります。診断する医師の専門的技量が要求されます。またSTDは妊婦が感染した場合母子感染により赤ちゃんに影響します。人間に性生活がある限り、STDにいつ遭遇するかわかりません。恥ずかしがらず、早めに病態が進展しないうちに、婦人科又は、泌尿器科を受診することをお勧めします。正しい診断のもとに適切な治療を受け、健康な生活に戻りましょう。

平成13年11月

淵 勲